

2015年11月30日

SAAJ NEWS RELEASE

IFRS 財団意見募集「体制とその有効性に関する評議員会のレビュー： レビューにあたっての論点」について意見書を提出

公益社団法人 日本証券アナリスト協会（会長：大場 昭義 東京海上アセットマネジメント株式会社 代表取締役社長）は、2015年7月7日にIFRS財団が公表した意見募集「体制とその有効性に関する評議員会のレビュー：レビューにあたっての論点」について意見書を作成し、11月30日にIFRS財団へ提出しました。

【意見書のポイント】

- ✓ 財務報告書の利用者にとって、統合報告などのより幅広い企業報告の内容の充実は、企業分析の効率化に寄与するために大歓迎である。ただし、多くの重要なIFRSの個別基準がまだ開発途上にあるため、従来通り企業報告ダイアログ（CRD）への積極的な参加者として、国際会計基準審議会（IASB）がこの分野に関与していくことを期待している。
- ✓ 情報ベンダーは、必ずしも会計基準の内容に精通していないため、IFRSの正確なデジタル表現を実現するには、会計基準設定主体の積極的な関与やチェックは必須と考えており、IFRSタクソノミについてのIFRS財団の戦略に同意する。
- ✓ 戦略および有効性のレビューの頻度を5年サイクルへ変更する提案に同意する。ただし、IFRS財団の戦略やIASBのアジェンダについて、途中経過を把握して問題点や改善策を検討するため、途中経過のチェックに有効な仕組みについて、IASBと協力して検討することを提案する。
- ✓ IASBの定員を16名から13名に削減する提案には同意しない。16名と13名でコミュニケーションの活発度に大きな差があるとは考えられず、定員を3名減らさねばならない明確な理由が理解できない。2014年7月以降、現状の14名体制でもIASBは特に問題なく審議を続けてきたと理解しており、IASBのメンバー数を現状からさらに1名減らす必要はないと考えている。

【添付資料1】 Re: Comment on Request for Views

“Trustees’ Review of Structure and Effectiveness: Issues for the Review”

【添付資料2】 意見募集「体制とその有効性に関する評議員会のレビュー：

レビューにあたっての論点」について

本件に関するお問い合わせは下記まで

SAAJ 公益社団法人 日本証券アナリスト協会

電話：03-3666-1577

担当：教育第1企画部長 貝増 眞かいます